別添1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和6年1月29日

協議会名：南城市地域公共交通会議

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
(株)鏡原第一交通	令和3年10月～令和4年9月 市内区域運行（ドアtoドア）によるデマンド交通	Nバス（市内線バス）の運行により市内移動の利便性が向上し、デマンド交通からNバスへの移行者が増加し、本来ドアtoドアのサービスを必要とるす75歳以上の高齢者の利用が増加した。	A	南城市生活交通確保維持改善計画のとおり事業は適切に実施された。	A	○1日当たり利用者数 目標：47.6人／日 実績：56.2人／日 ○1便あたりの利用者数 目標：1.9人／便 実績：2.1人／便 ○市民（成人）一人あたりに換算した負担額 目標：52円／月 実績：48円／月	新型コロナウイルス感染症流行後に、利用促進に向けた「公共交通だより」等に情報提供を行い利用者数の回復を図るとともに、利用者が回復した場合は、従前に定めた基準にしたがい増減便を行い、運行効率の向上を図る。
(株)鏡原第一交通	令和4年10月～令和5年9月 市内区域運行（ドアtoドア）によるデマンド交通	Nバス（市内線バス）の更なる利用促進に努めるため、令和5年6月から65歳以上及び障がい者手帳をお持ちの市民を対象とした「Nバス運賃支援事業」を実施している。引き続き、おでかけなんじぃがNバスを補完する役割を担い、本来ドアtoドアのサービスを必要とるす75歳以上の高齢者が利用しやすい環境づくりに努める。	A	南城市生活交通確保維持改善計画のとおり事業は適切に実施された。	B	○1日当たり利用者数 目標：51.3人／日 実績：60.9人／日 ○1便あたりの利用者数 目標：2.0人／便 実績：2.2人／便 ○市民（成人）一人あたりに換算した負担額 目標：45円／月 実績：47円／月	利用促進に向け「公共交通だより」等で、情報提供を行い、利用者数の増加に努める。運行見直し検討基準にて増減便の検討を行い、乗合率を含めた運行効率の向上を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

別添１－２

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月29日

協議会名：	南城市地域公共交通会議

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	南城市は沖縄本島南部の東海岸、県都那覇市から南島へ12kmに位置し、静穏な中城湾と太平洋に面している。東西18km、南北8kmの広がりを持ち、面積は49.94km2、人口は46,009人（令和5年3月）である。西側を除く三方が海岸線に接してはいるが、平坦地が少なく傾斜の多い地形となっている。 バス路線網は、市内全域に整備されているが、令和5年2月と9月に路線バスの減便の影響もあり運行本数が少なく、また、那覇バスターミナルを起点に路線網が形成されていることから、まちの拠点と位置づけている旧4町村の中心部相互を結ぶ路線が不十分であり、移動のほとんどを自家用車に頼っている状況となっている。バス停は市内各地に点在するが、傾斜地が多いことからバス停までのアクセスに不便を感じている方が多い。 このような状況を背景に、平成25年度からドアtoドアのデマンド交通「おでかけなんじぃ」の実証運行を行い、平成28年度から本格運行に至っており、市民の足として定着しつつある。しかし、市域の範囲の広さにより、当時10名乗りの乗合率をこれ以上向上させるのは困難となっている事や満員により予約を断る回数も増えており、デマンド交通のみでは移動需要を満たせない状況となっていた。そのため令和元年10月より公共交通の再編を行い、市内の移動需要を満たすためNバス（市内線バス）を導入し、デマンド交通は、Nバスを補完する役割を担っている。Nバスとおでかけなんじぃが役割分担を行い必要な方が必要な時に利用できる環境づくりを進めている。また、令和元年12月より乗合率の実績を考慮し5人乗りの車両へ変更を行った。市外向けの幹線バス（従来の路線バス）やNバス、デマンド交通が一体となった、利便性の高い公共交通ネットワークの形成を進めている。